

紫陽花

福井雅人

あじさいの雨に映える頃

私の乾いた記憶は目を覚ます

あの日のあじさいは淡い水色

あじさいのように変った二人の心

色づくことなく終った愛

そしてひとつの思い出となり

この雨に甦えるは淡い水色

あの日の遠い記憶



福井雅人

ふくい まさと

神奈川県立麻溝台高等学校卒業

明治学院大学社会学部中退

株式会社 東急ハンズ

株式会社 造事務所

相模総合補給廠

日本流通企画株式会社 等を経て現在に至る。

昭和 35 年（1960 年）生まれ 62 歳

凡

福井雅人

闇の中に私は黙す

聞こえるか、この沈黙が

笑わせるなど人の言う

闇の中に手探りをする

見えるか、この暗黒が

負い目があるなんてと人の言う

闇の中に独り憂う

わかるか、異分子の悲しみが

優越に過ぎぬと人の言う

闇の中に私は叫ぶ

声にならない狂気を

ああ、越えられないのだ

自分という舞台の上で

道化を忘れた道化師は

独り芝居を演じては

罪にならない薄笑い

無垢

福井雅人

気が狂わんばかりに惰眠を貪り

僕の四肢は萎え衰えた

脆弱な肉体は引く事を知らず

ぶつけた頭を再びぶつけろと諭す

突き破れたら幸いで

それが出来なきゃ死ぬだけだ

知っている奴がいる

見ない奴がいる

考える奴は高らかに笑い

考える奴は沈黙した

僕は歌おう

自分の詩を

お前に歌おう

自分の詩を

言葉を失くした僕は

心の高揚のないままに君を愛し

心の高揚がありながら僕を愛せなかった君

言葉を失くした僕を許せなかった君は

あなたには夢も希望も無いと言った

だから僕は歌うつもりだ

愛想笑いはもういらぬ